



第3部 京都医療科学大

① 診療放射線技師を養成 最先端医療で活躍

JR園部駅西口から天神山を眺めると、京都医療科学大学の建物が見えます。今年、創立91年目を迎えた、診療放射線技師を養成する日本で最も歴史のある四年制大学です。

学生数は370人ほどですが、卒業生は北海道から沖縄まで全国で活躍しています。学生も全国から入学し、ほぼ半数が南丹市に下宿して学んでいます。

肺がんなどの診断では胸部エックス線検査を、骨折では骨のエックス線検査を受けますが、レントゲン検査とも言われます。ドイツの「レントゲン」がエックス線を発見したためでしょう。その功績を評価され、レントゲンは第1回ノーベル賞を受賞しました。



えんどう・けいご 京都大医学部卒。京都大助教授を経て、群馬大医学部教授・付属病院放射線部長、日本医学放射線学会理事・会長など歴任。2011年4月から京都医療科学大学長。専門は放射線医学。

遠藤 啓吾 学長

ル賞を受賞しました。本学を創設した島津源蔵(島津製作所2代目社長)は京都大の研究者と実験を重ね、レントゲンの発見から10カ月後にエックス線撮影に成功しました。その後、島津製作所はエックス線撮影装置を販売するのですが、撮影に必要な技術者を養成するため、本校の前身「島津レントゲン講習所」を設けました。

専門学校から三年制短期大学への移行に伴い、1985年に京都市内から旧園部町に移転、2007年に四年制大学になりました。技術者の仕事は当初、骨や胸のエックス線撮影だけでしたが、新しい医療装置

が次々開発されました。コンピュータ断層撮影装置(CT)、磁気共鳴画像装置(MRI)、陽電子放射断層撮影装置(PET)などの画像診断装置、血管撮影や放射線治療装置などです。最先端医療には欠かせなくなり、診療放射線技師の仕事も大きく変わっています。



最先端医療に欠かせない診療放射線技師を養成する京都医療科学大学のキャンパス(南丹市園部町)

大量の放射線は健康に障害を来すため、人体に照射できるのは医師、歯科医師、診療放射線技師だけです。放射線を安全に使う病気の診断、治療を行えるよう4年間勉強し、国家試験に合格後、病院に勤務します。

診療放射線技師は約5万人いますが、仕事内容はあまり知られていません。そこで7回にわたり、診療放射線技師の仕事や放射線の医学利用などを紹介します。今回は、乳がんを診断するマンモグラフィー(乳房撮影)について解説します。

◇ 丹波2市1町にキャンパスを置く大学や大学の現場から、研究や教育、地域貢献などについて報告する「キャンパス通信」。第3部は、京都医療科学大(南丹市園部町)です。